

ゆやの子わいわいスナップ！

みんなのひろば



くらすめ〜る

学級通信

伊上小学校5年

担任：岡村 豊之先生

児童：13名

すばらしい自己判断力！

五月某日

職員会議が終わり、ふと運動場を見ると子どもが二名。確か朝学のはずだが・・・、よくよく見ると我学級の男子二名。

「おーい、何しているの？」
「教頭先生が刈られた枝をかたづけているんです。」
「だれが指示したわけでもないのに、教室に帰らず一生懸命仕事をしている。」

しばらくして教室へ。
他の十一名の子は何をして



いるのだろう。『一人も教室にいないでくれ。』と心に願いながら廊下を歩く。ドアを開けると願い通り一人もいない。二名の帰りが遅いので、きつと何かをしているのだと、全員が手伝いに出て行ったのだ。急いで外へ。五年生全員で作業をしている。
朝学なのに、つらい作業を選んだ二名。二名を手伝った十一名。これが自己判断力というものか。すばらしい六年生になるに違いない。

歳時記

にひやくとおか
二百十日

「二百十日って何の日？」
ほとんどの方はご存じだと思います。でも、都会の小学生たちの中には、知らない子がいても不思議ではありません。

二百十日は、立春から二百十日目に当たる日で、二百二十日とともに農家の厄日。

二百十日は、新暦では九月の一日か二日に当たり、このころに台風の影響が多く、稲の開花期と重なることから、特に恐れられてきました。

そこで、農村では、風祭りなどと呼ぶ、風水を防ぐ祭りが行われています。この日を中心にして地元の人々が、もちや赤飯、酒などを用意し、神社やお堂におこもりをする風習が各地にあります。

二百十日という言葉を知らない都会の子どもが多いのは、農業の経験が少ないためばかりではありません。最近稲の品種改良が進んで、二百十日ということに以前ほどこだわらなくなり、恐れられなくなったせいもあります。人気品種のコシヒカリなどは、出



穂期が八月初め、九月半ばには収穫です。それと、大きな台風は九月初めより下旬に多くなります。戦後の顕著な台風としては、「洞爺丸台風」「狩野川台風」「伊勢湾台風」など、いずれも九月二十五日から二十八日の間です。

九月一日は「防災の日」。
八月三十日〜九月五日は「防災週間」です。この期間中に地震対策、風水害対策、それと石油コンビナート、地下街などの災害に対する訓練や行事が行われます。この機会に改めて、防災に対する関心を深めるようにしましょう。